

# 合格体験記 (AO方式入学者選抜)

第 I 項 表象文化学部 英語英文 学科

出身高校名 光ヶ丘女子高等学校

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は、高校生活を女子校で過ごしたことで、勉強以外にも数多くの学びを得たと思っています。それらを更に深く追求し、自分を成長させたいと思い、女子大への進学を決めました。また、興味のある他国の文化を好きな大学の観点から追求できることや、日本の文化に身近に感じられることができる京都という土地で学ぶことに惹かれたため、同志社女子大学に進学したいと思いました。

(2) AO方式入学者選抜を受けようと思った理由。

同志社女子大学で学びたい意志を直接伝えることができる入試方法だと思えたからです。私は、高校の部活で放送部に所属し、文章に書いたり言葉にしたりにして物事を伝えてきました。AO入試は合格の基準が明確ではないため不安もありましたが、合格の可能性を上げることができ、今まで行ってきた活動を生かすことができると思い、挑戦しました。

(3) AO方式入学者選抜においてアピールした活動、経歴、資格等。

私は、放送部での活動と留学経験に焦点を当てました。部活動に関しては、ミサを含む学校行事の裏方に関わっていたことやテレビドキュメント番組の制作、留学に関しては、現地のミサに参加して感じたことや海外での生活で学んだ価値観などについて伝え、それらの活動を通して今までから変化した考え方をアピールしました。

(4) 出願書類作成や面接で心がけた点。

〔出願書類作成〕

第一次審査は書類のみなので、誰か読んでわかる文章であることを意識し、先生に添削していただきながら作成しました。自己アピールは今までしてきたこと、志望理由書は学びたいことを明確にし、誤字・脱字がないよう注意し、友人たちに協力してもらい何度も確認しました。課題レポートは、制作したテレビドキュメント番組の取材相手から学んだこととテーマが合っていたので、マスターに質問して聖書の意味も確認しながらまとめました。

〔面接〕

私は「プレゼンテーションをやる」のではなく、「会話をやる」ことを意識していました。当日は緊張しましたが、笑顔でいることを心がけ、面接官の先生方の目を見て、自分の言葉で届くように話していたので、会話を楽しむことができました。言葉を暗記せず、要点を絞って、提出書類に書いたこと以外にも様々な面でやりたいこと、学びたい意志を話すことができると良いと思います。

(5) 選抜を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

何事も不安に思っても、何かにつなぐと信じて最後までやることが大事だと思います。AO入試と一般入試に向けた勉強の両立は不安だと思いますが、やり終えたことがあればチャンスが広がり、自信を持ってAO入試に挑むことができると思います。同志社女子大学で学びたい、と思った自分の気持ちを大切に頑張ってください。応援しています。